

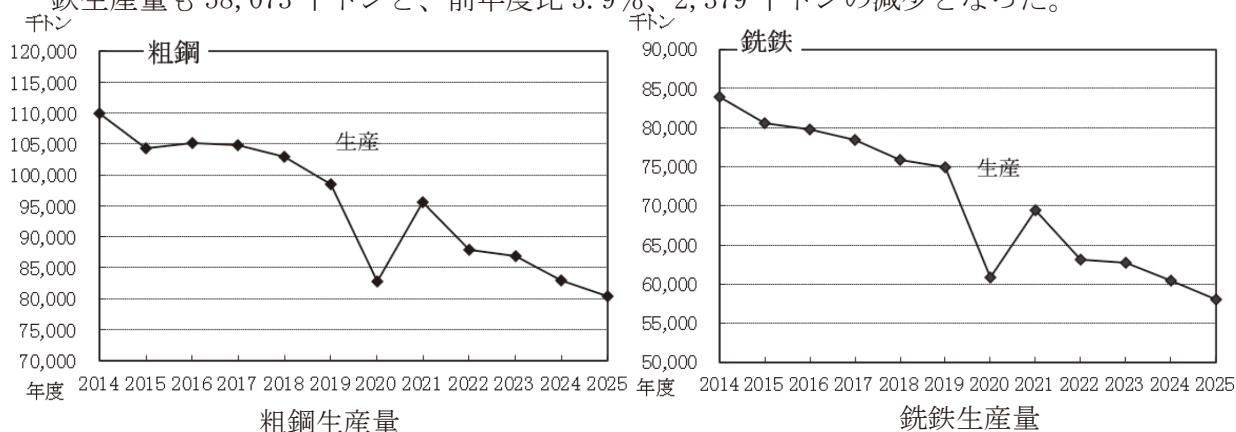
1. 2025 年度鉄鋼スラグ需給の概要

銑鉄生産量は前年度比 3.9%の減少となり、高炉スラグの生産量は前年度を 1.3%下回った。高炉スラグの向け先の大勢を占める外販量は前年度比で0.4%微増した。これは、主にセメント用が増加したことによる。外販量と所内使用を合わせた利用量全体で前年度比 0.2%の微増横ばいとなった。

粗鋼生産量は前年度比 3.2%の減少となり、製鋼スラグの生産量も 0.7%の減少となった。製鋼スラグの利用では、ウエイトの大きい道路用、土木用が前年度を下回ったものの、地盤改良材などが大きく増加したことから、外販量が前年度比 0.9%の微増となった。一方、所内使用は前年度を 4.2%上回った。外販量と所内使用を合わせた利用量全体で前年度比 1.8%の増加となった。

1. 粗鋼生産量および銑鉄生産量

粗鋼生産量は 80,324 千トンと、前年度比 3.2%、2,630 千トンの減少となった。銑鉄生産量も 58,073 千トンと、前年度比 3.9%、2,379 千トンの減少となった。

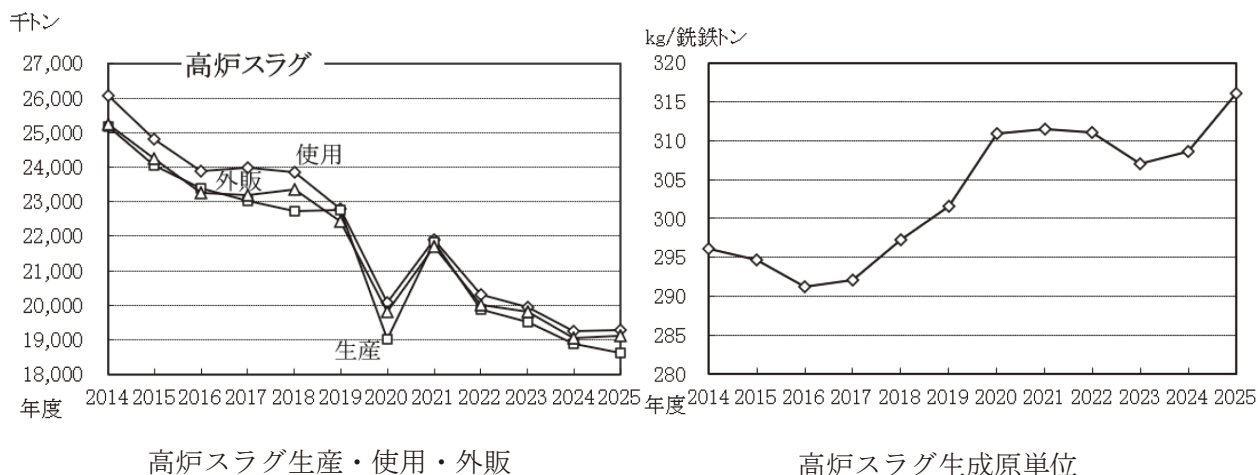


2. 高炉スラグ

(1) 高炉スラグ生成量と生産量

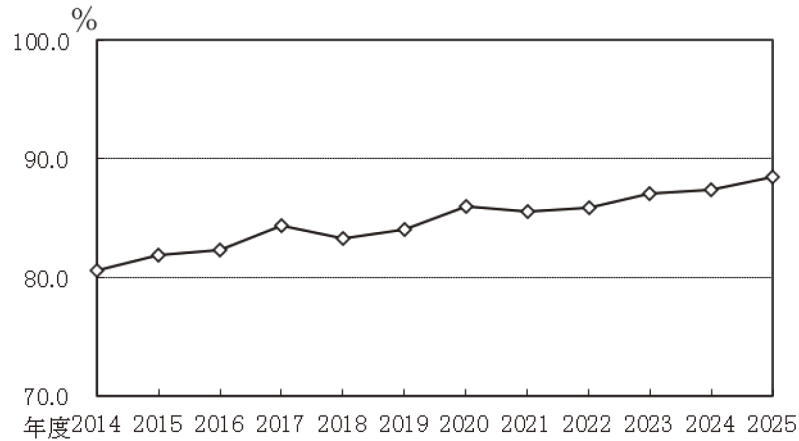
高炉スラグの生成量は 18,352 千トンと前年度を 1.6%、307 千トン下回り、生成原単位は 316kg/t となった。高炉スラグ生産量も 18,634 千トンと前年度比 1.3%、252 千トンの減少となった。

注：生成量は乾重量、生産量は乾重量又は湿重量（事業所選択）



(2) 高炉スラグ水砕化率

高炉スラグの生産量の内訳を見ると、徐冷スラグが前年度比 10.4%減の 2,143 千トン、水砕スラグも同微減横ばいの 16,490 千トンと共に減少した。水砕化率は 88.5%となった。



高炉スラグ水砕化率

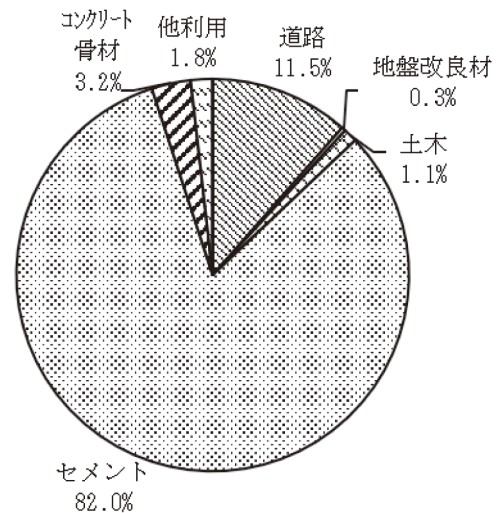
(3) 高炉スラグの販売量

利用量（外販量＋所内使用）計では、前年度比 0.2%、32 千トン増の 19,271 千トン、外販量は同 0.4%、71 千トン増の 19,121 千トンとなった。

用途別では、道路用が前年度を下回ったが、ウェイトの大きいセメント用が前年度を上回った。

2025 年度高炉スラグ使用実績（外販量＋所内使用）（千トン）

使用量	道 路	路盤材	1,855
		アスコン材	87
19,271		その 他	268
	地盤改良材		64
	土 木	港湾工事	85
		土木工事	135
	セメント用		15,811
	(輸出9,989 含む)		
	コンクリート用	粗 骨 材	23
		細 骨 材	591
	肥料・土壌改良材		122
	建 築 用	ロックウール	151
		建 材 用	1
		その 他	0
	そ の 他 利 用		78
	埋 立 等		0



2025 年度高炉スラグ使用内訳

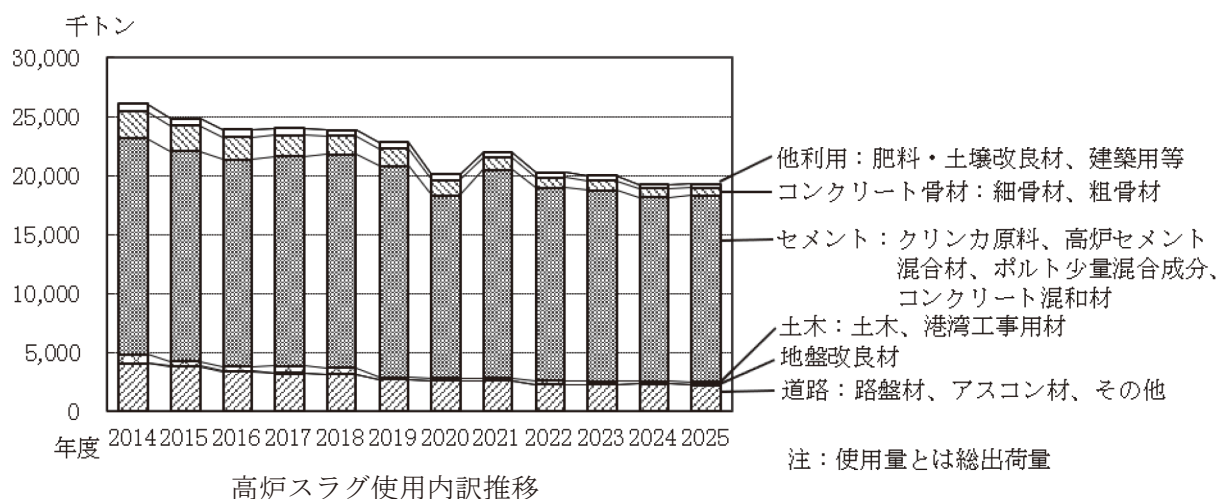
2025年度高炉スラグ生産量及び利用量

(単位：千トン)

			2023年度 数 量	2024年度 数 量	数 量	2025年度		構成比 (%)	
						対前年度比増減			
						数量	率 (%)		
高 炉 銑			62,764	60,452	58,073	▲ 2,379	▲ 3.9		
生 産 量	徐冷スラグ		2,519	2,392	2,143	▲ 249	▲ 10.4	11.5	
	水砕スラグ		17,002	16,493	16,490	▲ 3	▲ 0.0	88.5	
	計		19,520	18,886	18,634	▲ 252	▲ 1.3	100.0	
利 用 量	外 販 量	道路用 徐冷	1,977	1,973	1,877	▲ 96	▲ 4.9		
		水砕	226	262	265	2	0.9		
		計	2,203	2,236	2,142	▲ 93	▲ 4.2		
		地盤改良材 徐冷	10	21	64	42	196.3		0.3
		水砕	0	0	0	▲ 0	－		
		計	10	22	64	42	195.6		
		土木用 徐冷	75	113	112	▲ 1	▲ 0.8	1.0	
		水砕	169	39	77	38	99.0		
		計	244	151	189	37	24.7		
		セメント用 徐冷	65	71	64	▲ 7	▲ 9.2		82.7
		水砕	16,097	15,510	15,747	238	1.5		
		計	16,162	15,580	15,811	231	1.5		
	コンクリート用 徐冷	56	48	43	▲ 6	▲ 11.8	3.2		
	水砕	772	701	571	▲ 129	▲ 18.5			
	計	828	749	614	▲ 135	▲ 18.0			
	その他 徐冷	193	170	152	▲ 19	▲ 11.1		1.6	
	水砕	171	142	149	7	5.2			
	計	364	312	301	▲ 11	▲ 3.7			
	徐冷	2,376	2,397	2,311	▲ 85	▲ 3.6	100.0		
	水砕	17,436	16,653	16,809	156	0.9			
	計	19,811	19,050	19,121	71	0.4			
	所内使用	徐冷	92	116	99	▲ 17		▲ 15.0	
		水砕	54	73	52	▲ 21		▲ 28.8	
		計	146	189	150	▲ 38		▲ 20.3	
	合 計	徐冷	2,468	2,513	2,410	▲ 103	▲ 4.1		
		水砕	17,490	16,726	16,861	135	0.8		
		計	19,958	19,239	19,271	32	0.2		

注：①道路用には鉄道用を、セメント用には輸出を含む。その他は、肥料・土壌改良材、建築用、その他利用、等の合計。

②高炉銑（銑鉄生産量）は経済産業省「鉄鋼・非鉄金属・金属製品統計月報」による。



① セメント用

セメント用の販売量は、前年度比 1.5%、231 千トン増の 15,811 千トンと、主力の水砕スラグが前年度を上回り、外販全体の 8 割超を占めた。

この内、国内向けは前年度比 2.3%、134 千トン減の 5,822 千トン、輸出向けは同 3.8%、365 トン増の 9,989 千トンとなった。

高炉スラグのセメント用販売量（国内、輸出）の推移

(単位：千トン)

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	前年差 数量	%
国内 (構成比%)	8,101 (44.3)	7,474 (42.0)	7,541 (43.0)	7,514 (42.2)	7,874 (43.5)	7,503 (41.9)	6,707 (43.4)	6,911 (39.1)	6,463 (39.5)	6,062 (37.5)	5,956 (38.2)	5,822 (36.8)	▲ 134	▲ 2.3
輸出 (構成比%)	10,186 (55.7)	10,336 (58.0)	9,982 (57.0)	10,273 (57.8)	10,214 (56.5)	10,400 (58.1)	8,751 (56.6)	10,750 (60.9)	9,897 (60.5)	10,100 (62.5)	9,624 (61.8)	9,989 (63.2)	365	3.8
販売合計	18,288	17,810	17,523	17,786	18,088	17,903	15,458	17,661	16,360	16,162	15,580	15,811	231	1.5

セメントの生産状況については、輸出用クリンカ等除く全体の生産量が 38,757 千トンとなり、4 年連続で前年を下回っている。この内、ポルトランドセメントは前年度比 7.0%減少の 29,826 千トンとなり、高炉セメントも同 3.5%減少の 7,925 千トンと 7 年連続で前年度を下回った。高炉セメントの構成比は、ポルトランドセメントの落ち込みが高炉セメントの落ち込みより大きかったこともあり、前年度を僅かに上回る 20.4%となった。

② 道路用

道路用の販売量は、前年度比 4.2%減の 2,142 千トンと、外販量全体の 11.2%となった。

③ コンクリート用

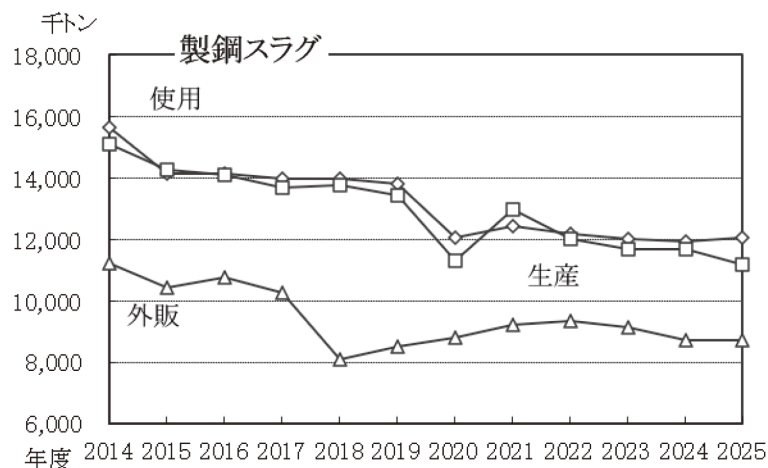
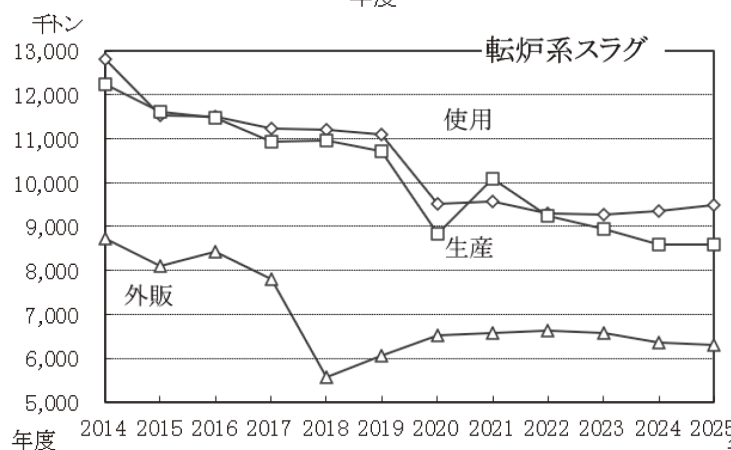
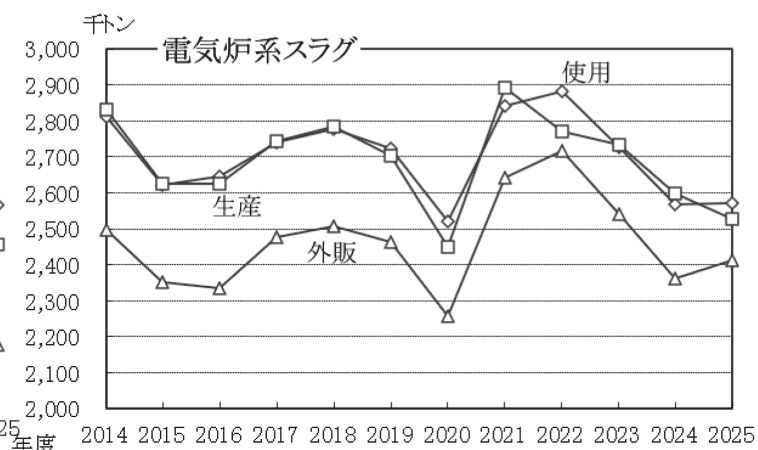
コンクリート用の販売量は、前年度比 18.0%減の 614 千トンとなり、外販量全体の 3.2%と前年度 (4.0%) より縮小した。このうち、水砕スラグ (細骨材用) も同 18.5%減の 571 千トンとなった。

3. 製鋼スラグ

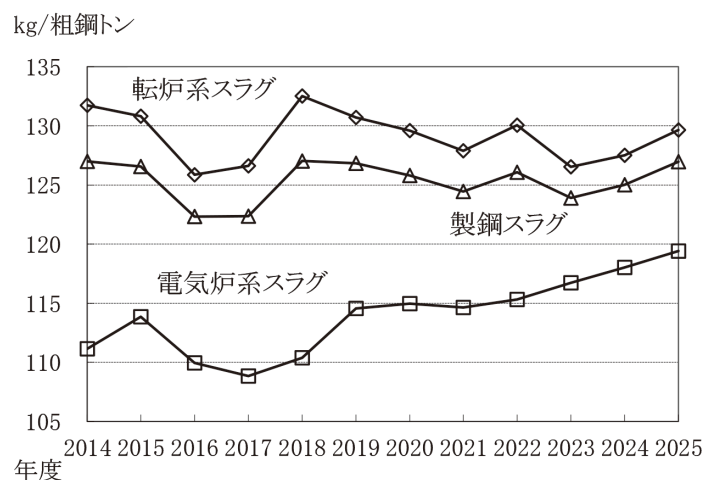
(1) 製鋼スラグの生成量

粗鋼生産量は、前年度比 3.2%減の 80,331 千トンとなった。製鋼スラグの生産量は 11,112 千トンと前年度比 0.7%、76 千トン減少した。転炉系スラグは微減横ばい、電気炉系スラグは 2.9%、74 千トンの減少で共に減少した。

また、製鋼スラグの生成原単位は 127kg/t となり、内訳は、転炉系スラグが 130kg/t、電気炉系スラグが 119kg/t となった。



製鋼/転炉系/電気炉系スラグ生産・使用・外販

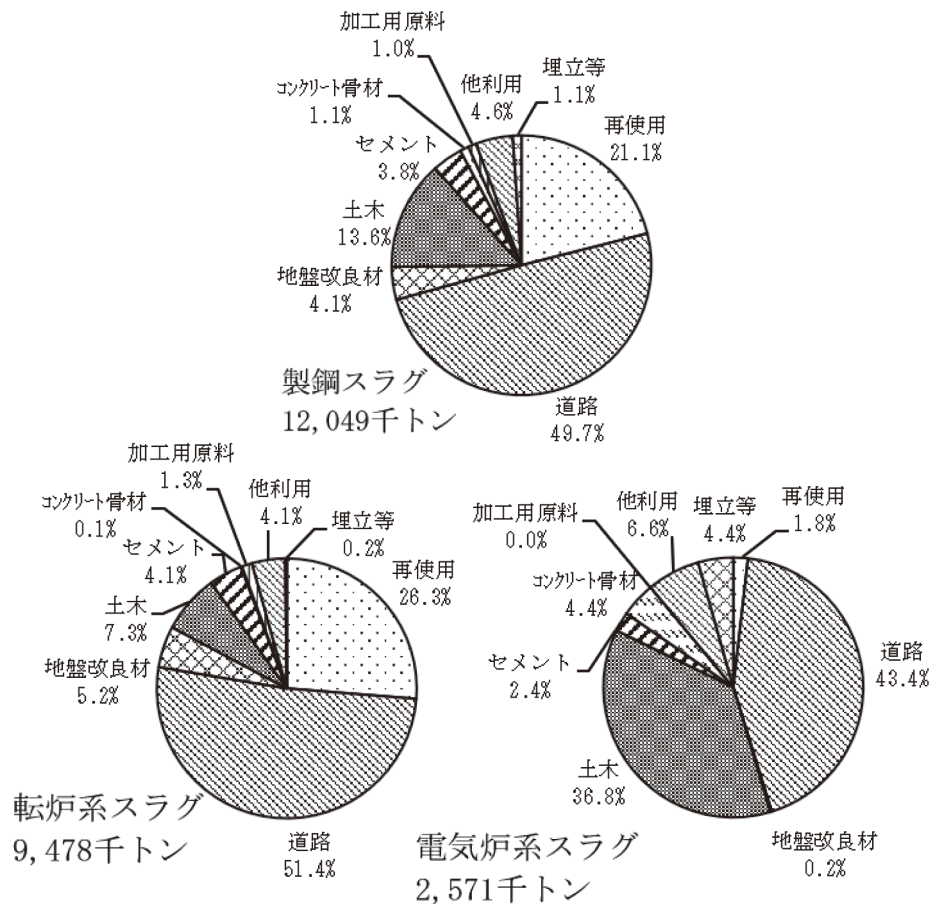


製鋼/転炉系/電気炉系スラグ生成原単位

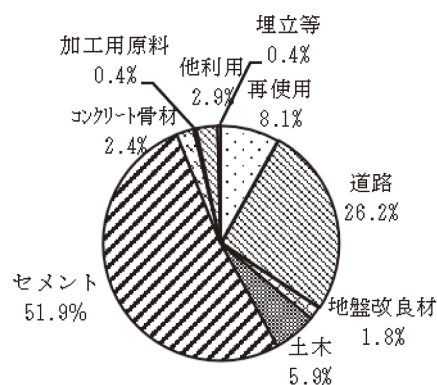
(2) 製鋼スラグの販売量

外販量と所内使用量を合わせた利用量合計は 1.8%増の 11,920 千トンとなった。

このうち、製鋼スラグの外販量は 8,611 千トンで、前年度比 0.9%、79 千トンの増加となり、炉別の内訳は、転炉系スラグは 6,296 千トン、電気炉系スラグは 2,315 千トンとなった。外販量を用途別に見ると、道路用、土木用が僅かに減少し、地盤改良材が大きく増加した。



製鋼/転炉系/電気炉系スラグ使用内訳



用途別使用量（高炉スラグと製鋼スラグの計）

使用量合計 31,321 千トン

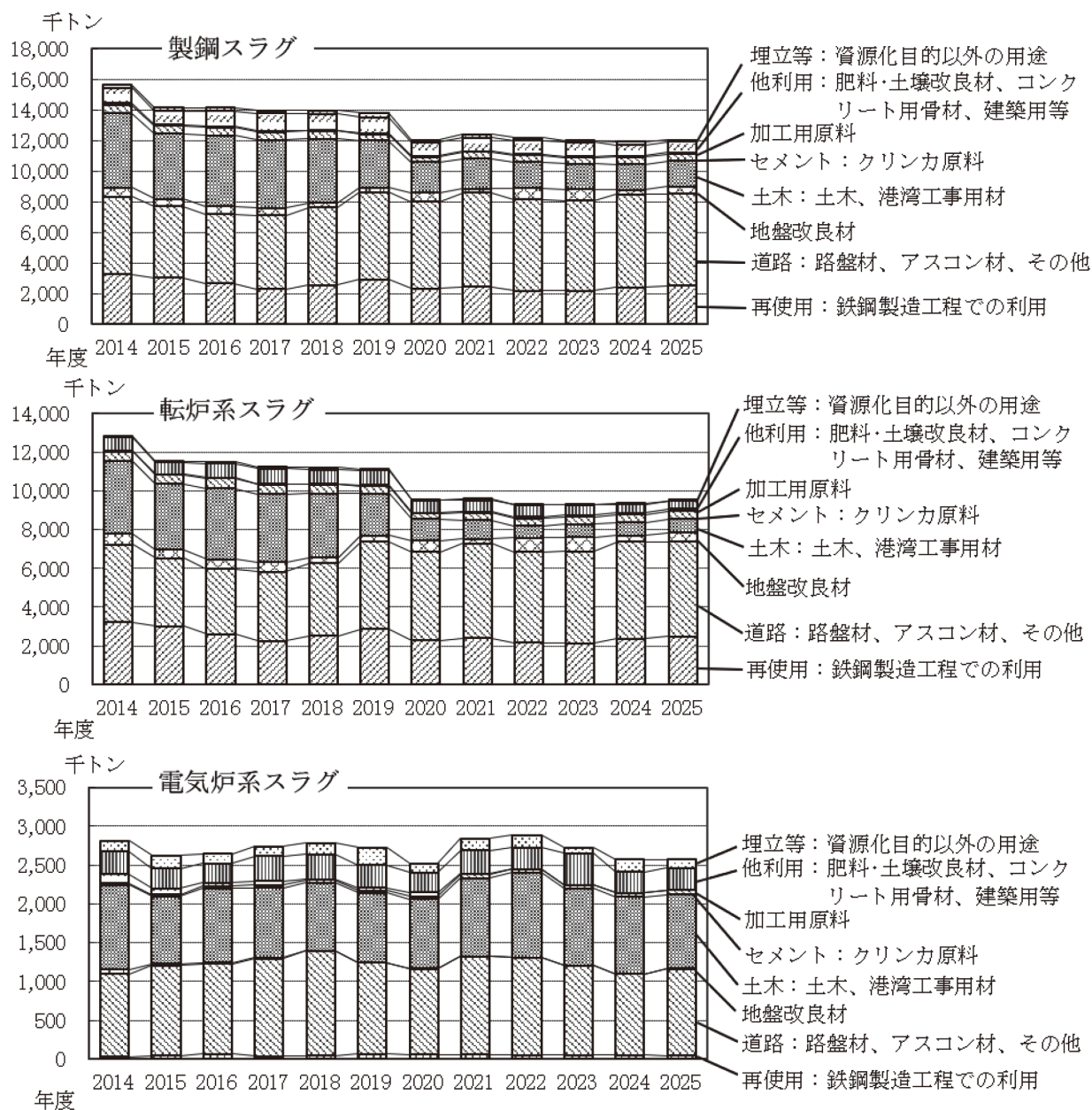
2025年度製鋼スラグ生産量及び利用量

(単位：千トン)

		2023年度 数 量	2024年度 数 量	数 量	2025年度		
					対前年度比増減		構成比 (%)
					数量	率 (%)	
粗鋼	転炉鋼	63,849	61,368	59,524	▲ 1,844	▲ 3.0	74.1
	電気炉鋼	22,979	21,586	20,800	▲ 786	▲ 3.6	25.9
	計	86,828	82,954	80,324	▲ 2,630	▲ 3.2	100.0
生産量	転炉系スラグ	8,934	8,589	8,588	▲ 1	▲ 0.0	77.3
	電気炉系スラグ	2,735	2,599	2,524	▲ 74	▲ 2.9	22.7
	計	11,669	11,188	11,112	▲ 76	▲ 0.7	100.0
利用量	再利用				-	-	-
	外 道路用	5,752	5,965	5,864	▲ 101	▲ 1.7	68.1
	地盤改良材	731	313	493	181	57.9	5.7
	販 土木用	1,449	1,329	1,311	▲ 17	▲ 1.3	15.2
	セメント用	424	459	455	▲ 4	▲ 0.9	5.3
	量 加工用原料	78	95	121	26	27.7	1.4
	その他	511	371	366	▲ 5	▲ 1.5	4.3
	計	8,945	8,531	8,611	79	0.9	100.0
	所 再利用	2,187	2,434	2,537	103	4.2	76.7
	内 道路用	133	72	120	47	65.4	3.6
	地盤改良材	1	1	0	▲ 1	▲ 88.3	0.0
	使 土木用	224	342	329	▲ 13	▲ 3.9	9.9
	セメント用				-	-	-
	量 加工用原料				-	-	-
	その他	333	326	323	▲ 3	▲ 0.8	9.8
	計	2,878	3,176	3,309	133	4.2	100.0
小 計		11,822	11,707	11,920	213	1.8	
埋立等	転炉系スラグ	23	52	17	▲ 35	▲ 66.5	
	電気炉系スラグ	160	157	112	▲ 45	▲ 28.5	
	小 計	183	209	130	▲ 79	▲ 37.9	
合 計 (総出荷量)		12,006	11,916	12,049	133	1.1	

注：①道路用には鉄道用を含む。その他用は、再利用、肥料・土壌改良材、コンクリート用、建築用、その他利用の合計。

②粗鋼生産量は経済産業省「鉄鋼・非鉄金属・金属製品統計月報」による。



製鋼/転炉系/電気炉系スラグ使用内訳推移

① 道路用

道路用は、前年度比 1.7%、101 千トン減少の 5,864 千トンとなり、外販量全体のほぼ 7 割を占めた。

② 土木用

土木用は、前年度比 1.3%、17 千トン減少の 1,311 千トンとなり、外販量全体の 15.2%となった。

③ 地盤改良材

地盤改良材は、前年度比 57.9%、181 千トン増加の 493 千トンとなった。

④ セメント用

セメント用は、前年度比 0.9%、4 千トン減少の 455 千トンとなった。

(3) 所内使用量

所内使用量は、前年度比 4.2%、133 千トン増加の 3,309 千トンと、製鋼スラグ利用量全体の 27.8%を占めた。用途別に見ると所内使用における再利用（下表）が 2,537 千トンと前年度比 4.2%増となり、所内使用量に占める再利用の割合は 76.7%となった。

製鋼スラグ「再利用」の推移

(単位：千トン)

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	前年差 数量	%
外 販	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
所内使用	3,261	3,053	2,679	2,299	2,555	2,891	2,334	2,470	2,207	2,187	2,434	2,537	103	4.2
計	3,261	3,053	2,679	2,301	2,555	2,891	2,334	2,470	2,207	2,187	2,434	2,537	103	4.2

(4) 埋立等

最終処分としての埋立等は、2025 年度については、前年度比 37.9%、79 千トン減の 130 千トンとなり、内訳は転炉系スラグ 17 千トン、電気炉系スラグ 112 千トンであった。